

道に落ちていた「どんぐり」、なにか変だ？

I 最初の疑問

みなさんは、8月から9月にかけて近所のコナラの雑木林の中の道を歩いたことがあるでしょうか。まだ夏なのにどんぐりが沢山落ちている場所があるのです。

しかも不思議なことにそのどんぐりは葉っぱつきの枝についたままなのです。コナラの枝付きどんぐりでした。(写真 1) 私は思わず<なにこれは？>と心のなかで呟きました。



写真 1

手に取ってみると、枝の切り口がみごとにきれいに切り取ってあるのです。誰かがもぎり取ったのではなく、切り取ったあとのようでした。(写真 2)



写真 2

頭の中で<はてなマーク？>が渦を巻き、わけがわからなくなりました。一体誰がこのようなことをしたのだろうか。

誰かがいたずらで切り落としたのだろうか。しかし、どんぐりは木の上の方にあるのでそう簡単にはできない。鳥やハクビシンなどの小動物が犯人なのだろうか。その場合、どんぐりを食べないで落とす理由がわからない。そこで私は落ちている枝付きどんぐりをもう少しよく観察してみれば何かヒントが見つかるかもしれないと思い、枝付きどんぐりを手に取ってみました。



写真 3

そしたらなんと<大発見>コナラのどんぐりの帽子(殻斗)に小さな穴があったのです。(写真 3)

地元農家 行政 市民 三者協働による里山再生を目指します。

ゆいのさと
NPO法人 まちだ結の里



写真4

さらに、穴の行き先がどうなっているか追跡してみたら穴は緑の皮を突き破って実の中まで続いていたのです。そして穴の中には小さな卵のような小さい球体があったのです。これは虫の卵に違いない、しかし犯人は一体誰なのでしょう？（写真4）

II 犯人の姿は

この小さな卵の親がわかれば、きっとこの枝付きどんぐりが地面に落ちている理由が分かるのではないか？ここまでくれば犯人捜しは成功したようなものと期待で胸いっぱい状態でした。



写真5

本とインターネットで調べたところ。この小さな卵の親＝成虫の名前は「ハイイロチョッキリ」という可愛い名前の昆虫だと分かりました。

「ハイイロチョッキリ」はコナラのどんぐりがまだ青いうちに卵を産み付け、枝を切り落とす習性があるとのこと。そしてその姿は口が長く先端に触覚が2

本ある機能的な格好をしています。口を除いた全長は9mm前後の小さな昆虫なのです。（写真5）

同様にコナラのどんぐりに卵を産み付けるゾウムシの仲間の「コナラシギゾウムシ」という名の昆虫がいることもわかりました。

口がハイイロチョッキリより細く長いし、触覚の形が違うので見分けやすいとのこと。

そして最大の違いはコナラシギゾウムシは卵を産み付けた後に枝を切り落とさないでそのままにしておくこと



写真6



写真7



写真8

地元農家

行政

市民

三者協働による里山再生を目指します。

ゆいのさと
NPO法人 まちだ結の里



なのです。(写真 6~8 は写真 3 を順番に解体した際の物です)

Ⅲ ではハイイロチョッキリはなぜ枝をきり落とすのだろうか？

「ハイイロチョッキリ達」は子孫を残すためにどんぐりに卵を産み、そのどんぐりの付いている枝を切り落とします、多分そのほうが有利だと考えたのだと推測されます。

一方、同じように形のコナラシギゾウムシはどんぐりに卵を産み付け自然に落ちるまでそのままにしています。双方とも幼虫はどんぐりの中身を食べて育ち、地表で外に出て地中に潜り、蛹となって冬をこします。

この違いは実はコナラの「防御戦略への対応の違い」だったのです。

植物は虫たちに「どんぐりを食べられるまま」になっているわけではないのです。

コナラは食害動物に対抗するためタンニン（簡単に言えば渋み）を増産します。（種間競争と言います。）「ハイイロチョッキリ」はそれを嫌がり、子供への影響を最小限にするため枝を切り落とすという手段（逃げるが勝ち）を選んだのです。

一方「コナラシギゾウムシ」は、長年の間にタンニンへの抵抗力を備えてきた（自然選択適応と言います。）と考えられます。ならば、枝を切り落とす手間なく樹上でゆっくり幼虫を育てた方が有利だと判断したのです。

このように、里山の雑木林の道に落ちていた「どんぐり付枝葉」は「虫と植物の知恵比べ」あるいは、「虫どうしの生存競争のドラマ」を象徴していると言えるでしょう。

Ⅳ 補足

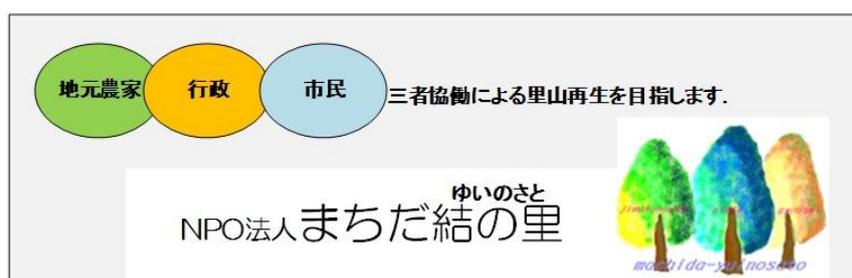
今回のどんぐり探索はコナラのどんぐりが主人公でしたが、その他どんぐりには沢山の種類があります。一般的には、ブナ科の樹木の果実を総称してどんぐりと呼び「栗：クリ」も「どんぐりの仲間」にはいるようです。

今回の疑問発生舞台となった「奈良ばい」の谷戸にも、コナラをはじめクヌギ、シラカシ、アラカシ、スダジイ、クリなど沢山のどんぐりの木があります。そしてそれらを食べるタヌキ、アナグマ、アカネズミ等も生息しています。

また鳥ではどんぐりを貯食するカケスやヤマガラなどもいます。

「奈良ばい」の植物調査で分かっている範囲では 700 種あまりあり、それらが共生、または対抗しながら豊かな生態系を形づくっています。

これを読んで、みなさんが<里山はなかなか面白しろそうだな>とっていただければ幸いです。





そしてある日「奈良ばい」の谷戸を訪れて、新しい疑問を発見されることを期待しています。

文責：owl

